

8 月は、晴れの日が多く、高温が予想されます!

～最後の‘要’は水管理～

品質向上(乳白粒・胴割粒を防ぐ)のため 湛水管理(しっかりと水田に水を張る)を行いましょう!

近畿地方 1 カ月予報によると 8 月は平年に比べ晴れの日が多い見込みで、気温も平年並または高くなる傾向との予報が発表されています。

水稻は、これから本格的に出穂～登熟を迎え、水稻の一生の中でもっとも水を必要とします。今後の水管理として、乳心白粒、胴割粒、茶米、死米を防ぎ、良質な米づくりのため、出穂前後 3 週間(出来れば刈取りの 5 日前まで)は、しっかりと水田に水を張り品質向上に努めて下さい。また、米の重さも増えるので、収量の増加も期待できる上に、水稻のカドミウム吸収を減少させる効果もあります。

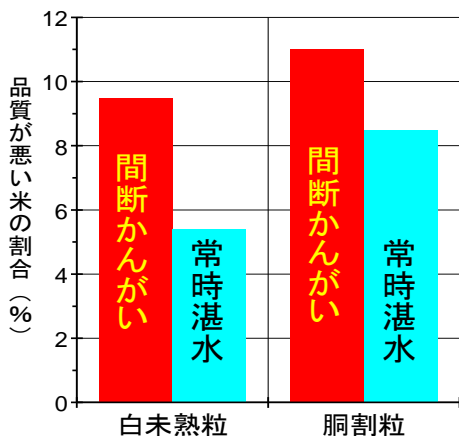


図. 出穂前後の水管理と玄米品質

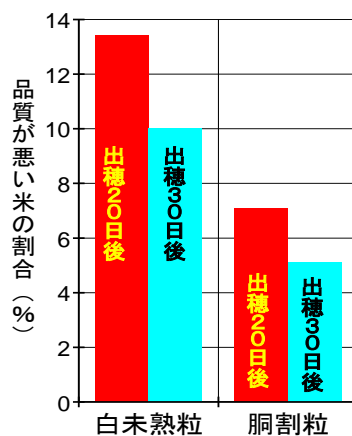


図. 落水時期と米の品質

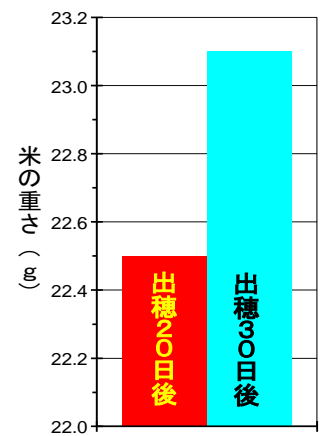


図. 落水時期と米の重さ

高温が続く場合は、出穂期から成熟期までの日数が短くなり、さらに刈り取り適期の幅が短くなるので、計画的な作業により、刈り遅れによる胴割米等の発生防止に努めて下さい。

農作業中の熱中症に注意をしましょう!

熱中症の予防法

- ①熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です! (帽子の着用、通気性の良い衣類の着用)
- ②水分・塩分補給をしましょう! (こまめな水分・塩分補給、気温の高い時間は作業をしない、こまめな休憩)
- ③熱中症になりにくい室内環境をつくりましょう! (ハウスの換気、遮光や断熱材の活用等による温度上昇の防止)

【生育状況】

水稻の生育は早まっており、草丈は「コシヒカリ」で平年よりやや長く、「秋の詩」では平年並となっています

- ① 茎数は、「コシヒカリ」「秋の詩」ともに平年より多かった。
- ② 茎数は、「コシヒカリ」「秋の詩」ともに平年並。
- ③ 「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月2日で平年より3日早く、出穂期は7月25日で平年より4日早い。
- ④ 「秋の詩」の幼穂形成期は7月11日で平年より7日早く、過去10年で最も早い。

病害虫防除・・・・・・7月19日発表の「[病害虫発生予報第7号](#)」を参照

○穂いもち（発生時期：平年並、発生量：平年並）

- ① 7月に出穂する極早生や早生品種では、発生しやすいので注意しましょう。
- ② 粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除しましょう。
- ③ 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避けて下さい。

○紋枯病（発生時期：平年並、発生量：平年並）

- ① 前年発生の多かった圃場では、再発の可能性が高く、特に注意して下さい。
- ② 生育の旺盛な圃場で、発生が多いので注意して下さい。

○斑点米カメムシ防除（発生時期：やや早い、発生量：やや多い）

この5か年で最も多くなる予報となっています。畦畔や雑草地に発生が多い場合は、乳熟期頃(出穂7～10日後)に防除して下さい。また、出穂期に大型斑点米カメムシ類が確認できる圃場では糊熟期頃(出穂10～20日後)にも防除して下さい。

【適期収穫】

- ・ 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種だけでなく、中生品種でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるように準備を整えて下さい。
- ・ 収穫時期が近づいたら、圃場に入って穂(籾)をしっかりと確認し、黄化籾が85%～90%になった頃に収穫する。特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないように注意しましょう。